

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

吉 田 晴 信

○長野県松本市

「街なみ環境整備事業」及び「歩いてみたい城下町整備事業」について

【所 見】

この事業は、住宅等が良好な美観を有していない、地区の生活道路などが未整備であるなど、住環境の整備を必要とする区域において、ゆとりとうるおいのある生活空間形成のため、住環境の整備をする事業として始まった。事業開始のきっかけとなったのは、市民有志による「街づくりの会」であるとのことである。この「街づくりの会」が発展をし、街づくり推進協議会が設立されるとともに、協議会と市との間で街づくり協定が締結され、事業が推進されている。この協定を締結するにあたり、対象住民全員に了承を得なくてはならなかったが、この推進協議会が「街づくりの会」から移行されたものであるため、反対する住民に対しては推進協議会の委員が説得を行った。事業の整備方針策定から住民が関わることにより事業が進められ、国宝松本城とその城下町の街道筋に代表される歴史的まちなみ景観等を生かしながら、地域の活性化や住環境整備に取り組んでいる。

中心市街地のまちづくり事業は、中町地区、下町地区・お城東地区・中央東地区・お城周辺地区の5地区（計84ヘクタール）で行っており、平成22年度に5つのまちづくり推進協議会が連携した「歩いてみたい城下町まちづくり連合会」が設立された。これにより、この5地区を「歩いてみたい城下町地区」として定め、一体的なエリアとして整備することで、松本駅から松本城までの周辺商店街への回遊性を高め、地域の活性化と住居環境の向上を図るとともに、松本城や城下町の歴史を大切にしながら魅力あるまちづくりを行っている。

足利市においても、足利学校、鑿阿寺、足利市立美術館の周辺に景観に配慮した町並みを作るために、地域住民に理解を得て建物の新築、改築に対し市から補助金を出すなどの補助事業を充実させなくてはならないが、地域の景観を完成させるためには10年、20年と長い年月がかかるので、補助制度も長期に設定しなければならない。また現在石畳にしている道など景観を良好な状態で維持しなければならない。

○長野県安曇野市

「安曇野市観光振興ビジョン」について

【所 見】

「はじめよう、安曇野暮らしツーリズム」という理念のもと「安曇野市観光振興ビジョン」を策定している。これは、市民協力のもと大切にしてきた自然や農村景観、歴史、文化、コミュニティを来訪者へ発信することが必要であるとの考えに基づいたもので、観光を通じ地域経済活性化に向けた取り組みに向け全市一丸となった意識的な仕組み作りを構築している。素晴らしい自然、農村風景や農産物、歴史、文化、コミュニティ、そして民族・風土など多種多様な地域資源があり、子供達や来訪者に一番伝えたいことは、自然と共生し、農のある景観と地産地消による豊かな食生活、文化や芸術に触れ、みんなで協力しあって暮らしていくという豊かな暮らしぶりである。また地域資源や暮らしに磨きをかけ、市民にとっても、来訪者にとっても、魅力的な観光を作ることである。

今までの観光は、観光関連事業者が来訪者に飲食、宿泊などのサービス、商品を提供し、来訪者がその対価を支払うことで成り立っていたが、これからの観光は観光関連事業者と来訪者の関係は変わらないが、市民、農業関係者などの他の産業関係者を加え、来訪者間では市民、産業関係者から暮らしに役立つ情報や観光施設の案内などを提供してもらい、来訪者は産業関係者からの情報を元に体験などを行う。また、観光関連事業者と市民、産業関係者でともに力を合わせて活動を行うことが、今後の足利市の目指す観光事業になるのではないかと。

ツーリズムとは、観光事業、旅行業また観光旅行であるが、体験型観光として位置づける動きが強まっている。今後の観光は、名所、旧跡をただ見るのではなく、そこに体験をするという付加価値をつけて、今までの単なる観光から脱却することが大切である。大手の観光旅行会社では、仲間と楽しむテーマの旅や添乗員付きツアーなど数多くのバスツアー、国内、海外ツアーを提供し、好評を博しているとのことであるので、体験型観光は今後の観光行政を行う上で大変有意義なものになると思う。

最近、千葉県松戸市からお寺に興味があり、足利市に来たご夫婦と話をする機会があり、午後7時過ぎに足利市内で夕食を取ってから帰宅するとのことであった。首都圏から足利市まで東武伊勢崎線を使って約2時間以内で来られることを観光地として近いとのメリットとしているが、約2時間以内で首都圏まで帰れてしまい、足利市内に宿泊滞在をせず滞在時間が短いというデメリットでもある。このデメリットを克服するのは容易ではないが、ツーリズム、体験型観光を市民、農業などの産業関係者、観光関連業者、行政で実施することで帰宅できるギリギリの時間まで滞在してもらい、滞在時間を伸ばすことは可能である。

この事業は、観光関連事業者だけが取り組むものでなく、市民と観光関連事業者や農林など関係者をはじめとしたすべての産業の事業者、行政の連携・協働により、来訪者に足利市のよさを体験・応援してもらうことを今後の課題とするべきだと思う。

今後の行政運営には松本市、安曇野市の先進地を参考に足利市の良さを市民と共に来訪者にアピールしていきたい。